



あの津波は、  
私にとっては幸せ運んできたの……



愛子さんの言葉の真意とは？  
震災から12年。  
聞こえてくる風の音と北上川の風景。  
想像すればつながる  
追憶のポエトリー。

『石巻市立湊小学校避難所』の藤川佳三作品

# 風に立つ 愛子さん

出演 村上愛子 / 監督・撮影 藤川佳三  
編集 大重裕二 / 実景撮影 田中創  
整音 黄永昌 / 音楽 植田智道  
ナレーション 片山享  
製作 IN&OUT  
助成 A F F 2  
2022年作品 (75分)

※作品中に津波の映像が含まれています。

上映日 **11月26日(日)**  
会場 鶴岡まちなかキネマ

「風に立つ愛子さん」上映会  
午前の部 11時 午後の部 15時20分  
入場料 1,000円 大学生以下無料 定員 40名  
藤川監督と被災地支援団体トークイベント  
午前の部 鶴岡書ボランティアネットワーク かたづけびと  
チームはちまき  
午後の部 復興ボランティア支援センターやまがた  
チーム鶴岡・おいたまラジオ NPO センター

# 愛子さんはひとりで生きてきた

2011年、東日本大震災の被災者である石巻の村上愛子さん(通称：愛ちゃん 当時69歳)。避難所になった小学校で過ごし、その後仮設住宅に暮らし始める。

愛子さんは避難所で明るいキャラクターとユーモアでいつも周りを笑顔にしていた。仮設住宅でひとり暮らしになった時には、自分の思い出を語りはじめた。愛子さんは、子供の頃の思い出をまるで昨日のこのように鮮やかに語った。高校に進学しないで働き、結婚を選ばず、長い期間家族の介護をした。紆余曲折の人生だった。

愛子さんの人生観。津波がもたらしたものはなんだったのか。

## 大切なのは自分を見つめること 震災の後に聞こえてくる風の音と北上川の風景

愛子さんの言葉を聞いていると、なぜか映画を見ている自分の人生を思い返してしまう。

それは、愛子さんが一瞬一瞬を大切に生きてきたから。

自分を見つめて生きてきたから。

愛子さんが生まれた北上川の風景を映し出しながら、そして風の音を聞きながら、愛子さんの思い出と人生を辿っていく。



この映画は、震災時に出会った大切な友人、村上愛子さんとの8年間の記録です。

今でも目を閉じれば、愛子さんが「ここ」にいて、私に面白いことを言ってくれています。愛子さんの「生きた証」が届くことを願っています。

藤川佳三



## 風に立つ愛子さん

出演 村上愛子 / 監督・撮影 藤川佳三

編集 大重裕二 / 実景撮影 田中創 / 整音 黄永昌 / 音楽 植田智道 / ナレーション 片山享

製作 IN & OUT / 助成 AFF2 / 2022年作品 (75分)

IN & OUT

日時 11月26日(日) 上映時間 午前の部 11:00~ 午後の部 15:20~

会場 鶴岡まちなかキネマ 入場料 大人 1,000円 大学生以下 無料

監督と被災地支援者トーク 映画終了後

東日本大震災の避難所となった湊小学校・そこに避難した人々を追った藤川監督をお迎えして、鶴岡市から石巻に支援に赴いた方より登壇していただき、被災地支援など当時を振り返って語っていただきます。

主催 鶴岡災害ボランティアネットワーク 山王キネまち大学 後援 鶴岡市 鶴岡市ボランティアセンター  
問い合わせ 鶴岡まちなかキネマ 0235-64-1441



独立行政法人福祉医療機構  
社会福祉振興助成事業